●研究の全体構想

中教審答申・新学習指導要領
・地域の人々や異年齢、小・中・高・特別支援学校及び高齢者などとの交流の重要性

生徒の実態
・人間関係が固定化し、新たな挑戦や目立つことを避ける
・自己肯定感が低い

学校の実態
・埼玉小学校の児童がほぼそのまま本校に進学してくる
・保護者の関心も高く協力的

研　究　主　題

ふるさとに誇りをもち　人とのかかわりを育む生徒の育成

～ 交流力の育成を通して ～

育てたい力

・人とよりよくかかわる力（交流力、コミュニケーション力）
・自他のよさに気づき、多様な人の生き方に共感する力
・ふるさとに誇りをもち、大切にする力

研究仮説

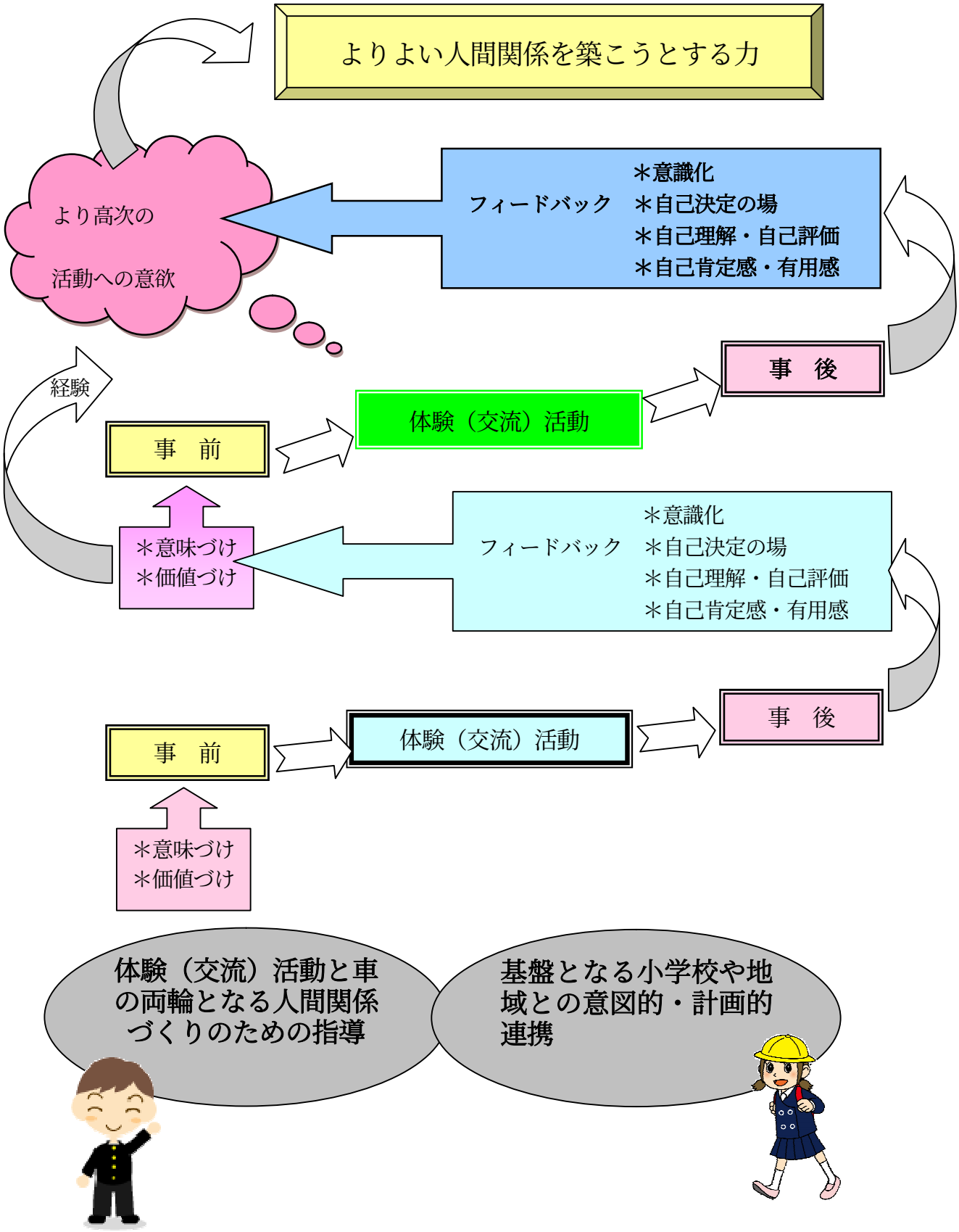
日々の学級活動の中で人間関係づくりのための指導を進め、異年齢、異校種、地域との様々な体験（交流）活動を行うことによって、よりよい人間関係を築いていこうとする態度が育つであろう。

具体的方策

(1)「体験（交流）活動」
(2)「人間関係づくりのための指導」
(3)「小学校や地域との連携」

計画的、組織的に実施

ポイント

①３年間を見通した系統的な指導計画
②事前 → 体験（交流）→ 事後の一連の流れを重視した指導計画
③生徒の高まりや変容の見とり

＜交流力育成のスパイラル構造　模式図＞